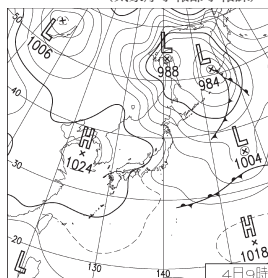


日々の天気図

— No. 82

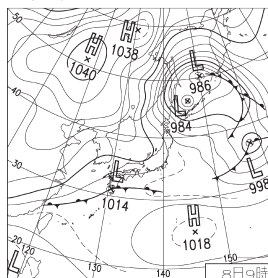
2008年11月

- ・6日、前線と低気圧の影響で鹿児島県南さつま市加世田82 mm/1 h、
- ・7日～8日、発達した低気圧により、北海道稚内市宗谷岬で最大風速26.7 m/s、最大瞬間風速35.7 m/s、
- ・30日、冬型の気圧配置となり山形県酒田市飛島で最大風速26.7 m/s、最大瞬間風速36.8 m/sを記録、
(気象庁予報部予報課)



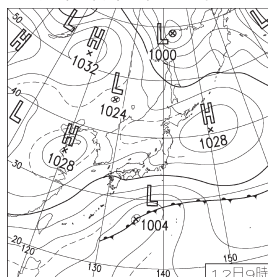
4日(火)北日本に初雪

北日本に寒気が流入し札幌をはじめとする北海道の広い範囲で初雪を観測し一面銀世界へ、この雪は東北にも訪れ青森で昨年より11日早い初雪を観測。



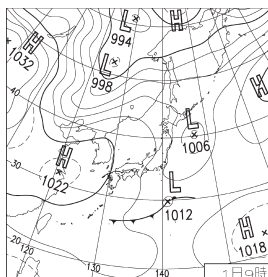
8日(土)盛岡で初雪

北海道は12月並の寒気が入り、日本海側中心に24時間で10～20 cmの降雪。盛岡で平年と同日の初雪を観測。本州南岸に停滞する前線の影響で東～西日本は南部を中心に雨。



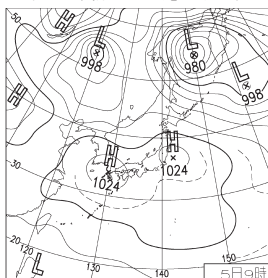
12日(水)山形県酒田市 初水

日本の南の前線上を低気圧が東進し、八丈島の南の海上は大しけ。東北南部の一部と関東甲信で曇りや雨となった他は、三陸沖や黄海の移動性高気圧に覆われて概ね晴れ。



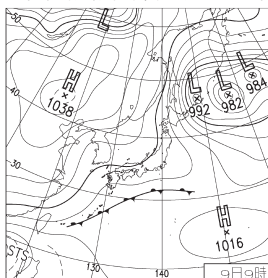
1日(土)東京地方で木枯らし1号

北～東日本は一時弱い冬型の気圧配置となり日本海側と北海道は朝のうち雨、午後は回復して晴れ。その他は終日晴れ。東京地方は昨年より17日早い「木枯らし1号」が吹く。



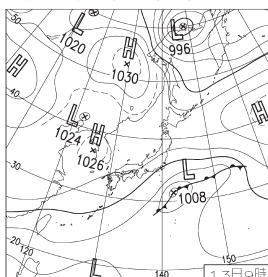
5日(水)北日本は不安定

西～東日本は高気圧に覆われ概ね晴れるが、北日本は気圧の谷が通過、所々で雨や雷雨。秋田市で15 mmのひょう。先島諸島も朝までに激しい雨。北海道標茶町最低気温-8.8℃。



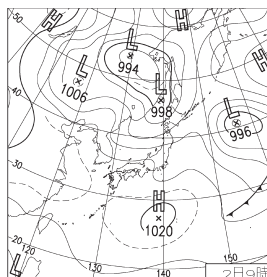
9日(日)季節を分ける雲

日本付近は冬型の気圧配置が続いているが、本州は大陸と南海上の高気圧の境目にあたり雲が多く所々で雨を観測。北海道東部は千島近海の高気圧の影響で暴風が続く。



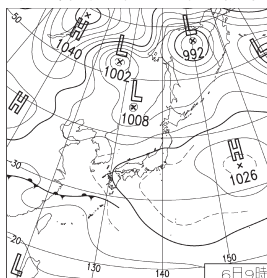
13日(木)全国的に晴れ

日本の東海上と朝鮮半島の高気圧に覆われて全国的に晴れたが、南西諸島は高気圧の縁で初めは雨の所も。気温は10月下旬～11月上旬並で、東海から西の太平洋側で20℃超の所も。



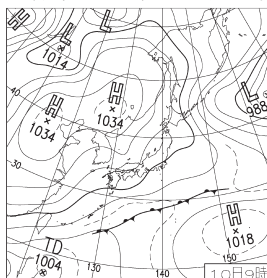
2日(日)山形市 初水

南西諸島～九州と東～西日本の日本海側や北日本は気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨。秋田県で竜巻発生。他は所々で薄雲が広がったものの、南海上の高気圧に覆われて概ね晴れ。



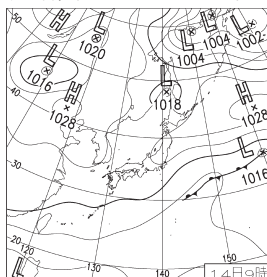
6日(木)九州南部で猛烈な雨

高気圧が東に抜け次第に気圧の谷に入る。東～北日本太平洋側は概ね晴れ、日本海側は曇りや雨、西日本は前線の影響で所々雨。鹿児島県南さつま市加世田82 mm/1 hの猛烈な雨。



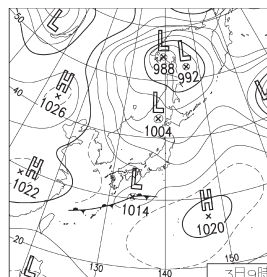
10日(月)南西諸島も肌寒く

本州付近は太平洋側の雨が収まるも、依然雲が多く肌寒い。南西諸島は終日雨で日中も気温が上がらず、那覇市樋川の最高気温は22.8℃。6月以降、初めて夏日が途切れる。



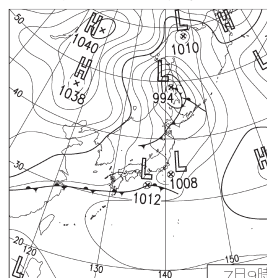
14日(金)穏やかな晴れ

日本付近は低気圧の接近する北海道や南西諸島を除き、昨日に続き広く高気圧に覆われ晴天。このため各地で最高気温は10月中旬から下旬並みの穏やかな1日。



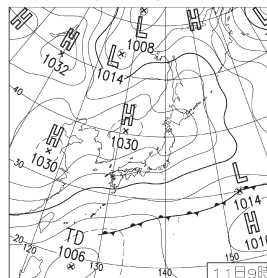
3日(月)文化の日

日本海北部と日本の南海上に低気圧があって東進。全国的に曇りや北海道～東北の所々と東海の一部及び四国～九州南部では雨が降り、東北地方では雷雨となった所も。



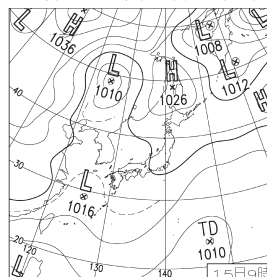
7日(金)台風第19号発生

寒冷前線が通過し北日本～北陸は雨。北海道は次第に雪に変わり大荒れ。日高支庁様似町で竜巻発生。南海上の前線上を低気圧が東進。太平洋側は午後一時晴れたが朝晩は曇りや雨。



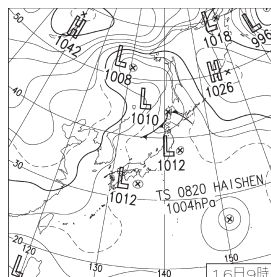
11日(火)東北～北海道冷え込む

東北以北は放射冷却で最低気温が多くの所で平年並以下、北海道高良野市麓郷では-10.3℃。北海道室蘭市や青森市等で初霜や初水。福島県吾妻山で高さ300 m程度の噴気を観測。



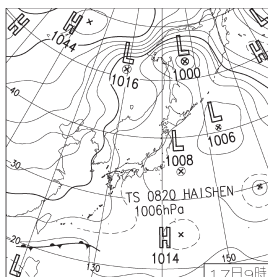
15日(土)天気は下り坂

高気圧の勢力が弱まり、大陸から低気圧や気圧の谷が接近。九州は昼頃から、四国、中国も夜には雨。東海や関東の一部でも南からの湿った気流による弱い雨。



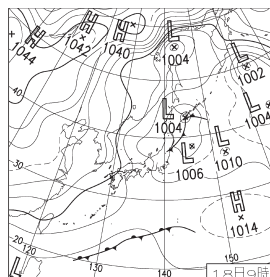
16日(日)台風第20・21号発生

日本付近は気圧の谷。この影響で全国的に雨や曇りの天気となった。最低気温が全国的に平年より2～6℃程度高く、北海道釧路市の最低気温6.8℃で平年より8.2℃高い。



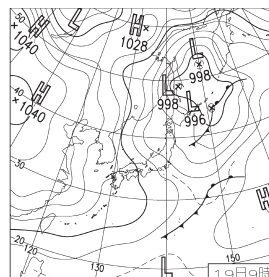
17日(月)インドネシアで地震(M7.5)

西日本の日本海側と北～東日本は、日中は概ね晴れたが、朝晩を中心に気圧の谷の影響で曇りや雨となり、所により雷雨。西日本の太平洋側は晴れ。



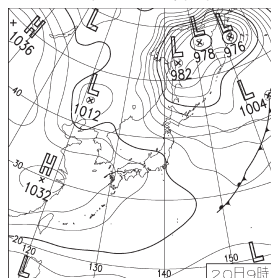
18日(火)近畿地方 木枯らし1号

低気圧が道東付近を進み、大陸には優勢な高気圧があって、次第に冬型の気圧配置。日本海側は曇りや雨で夜には寒気が流入して初雪の所もあり、風も強い。太平洋側は晴れ。



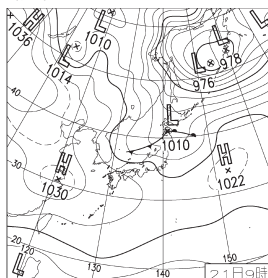
19日(水)寒気流入

全国的に冬型の気圧配置となり強い寒気が流入。日本海側を中心に多くの地域で初雪。新潟では竜巻が、輪島では直径10mmのヒョウが観測される荒れた天気となった。



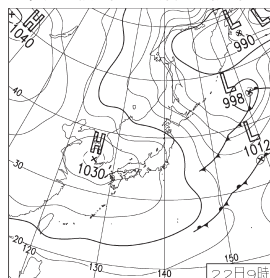
20日(木)さらなる冷え込み

冬の季節風が強まった北日本は大雪や吹雪となり、北海道では多くの地点で真冬日。西日本の最低気温は軒並み真冬並で、大阪市、広島市、宮崎市などで初霜、初氷を観測。



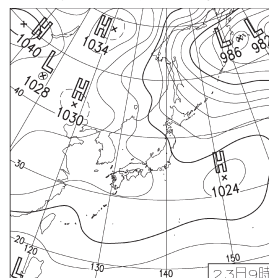
21日(金)寒さも峠を越え

低気圧が津軽海峡を進み、冬型の気圧配置が崩れた。関東や西日本の所々で晴れたが、その他は日本海側を中心に雨や雪で雷の所も、日中の最高気温は平年並の所多い。



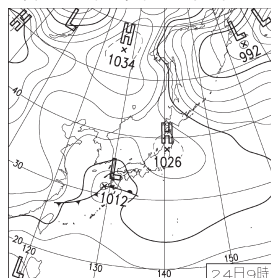
22日(土)北日本中心の冬型

一時的に弱い冬型の気圧配置となったが、その後は緩み北陸～北日本で時々雨や雪となった。他は西から移動性高気圧に覆われて概ね晴れ、赤城山の初冠雪を観測(平年と同じ)。



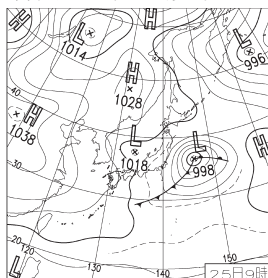
23日(日)冬型 次第に緩む

北陸～北日本は弱い冬型の気圧配置が続く、雨や雪。一方、関東～中国・四国は高気圧に緩やかに覆われ、よく晴れた。九州は東シナ海に発生しつつある低気圧によりにわか雨。



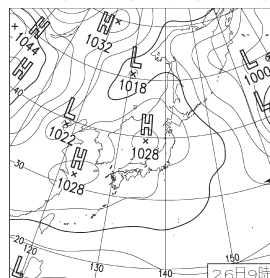
24日(月)太平洋側は久々お湿り

低気圧が西～東日本の太平洋沿岸部を東北東進したため、西～東日本では曇りや雨。山沿いの一部は雪。四国から関東の太平洋側は16日以来の久しぶりにまとまった雨。



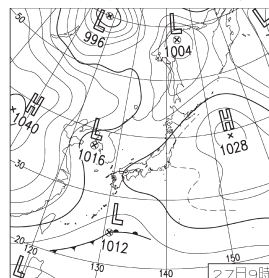
25日(火)北海道で記録的な寒さ

本州は日中日射が戻る所が多いが、北陸や山陰は雨や雪。最低気温は、北海道下川町で平年より16.3℃低い-20.9℃をはじめ、道内4か所で-20℃台を記録(11月の極値更新)。



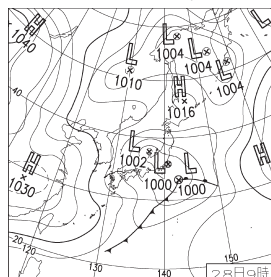
26日(水)今朝も北海道冷え込む

北日本の日本海側と先島諸島は雨や曇りだが、その他は移動性高気圧に覆われて小春日和。北日本では放射冷却により12月下旬から真冬並みの最低気温。



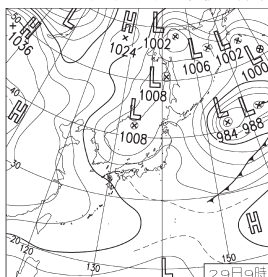
27日(木)関東 日中真冬並の気温

高気圧は日本のはるか東に去り、日本付近は次第に深い気圧の谷に。東北～北陸・山陰で午前中を中心に晴れた他は全国的に曇りや雨。新潟市で初霜、仙台市で初霜・初氷を観測。



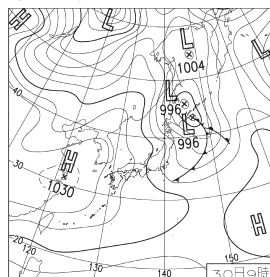
28日(金)発達中の低気圧により暴風

関東の沖を低気圧が北東進、21時には三陸沖で984 hPaに急発達。東北の太平洋側で暴風警報が出され、宮城県牡鹿郡女川町江ノ島で日最大風速、北北東22.0 m/sを記録。



29日(土)日本海側大荒れ

日本海に低気圧があり北東進、北日本から本州にかけては日本海側を中心に曇りや雷雨。風も強く山形県酒田市飛島で日最大瞬間風速35.6 m/sを観測。



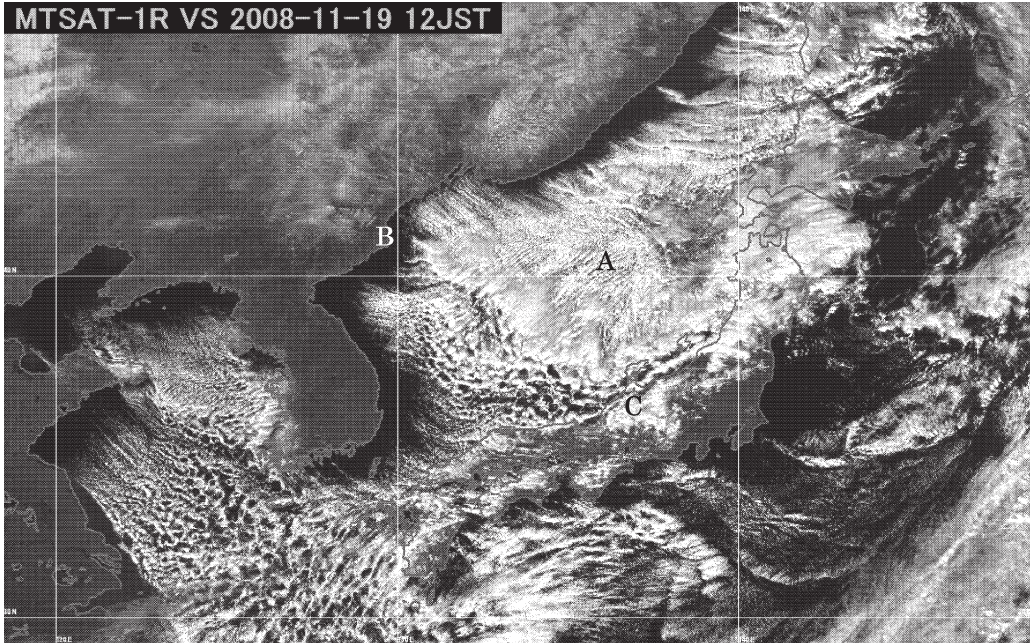
30日(日)北日本 風雪強まる

北日本を低気圧が通過、冬型の気圧配置に。東～北日本の沿岸部中心に引き続き風強く、日中気温が下がった北日本では吹雪の所も。青森市で8 mm、山形県酒田市で7 mmのひょう。



今月のひまわり画像—2008年11月

冬の衛星画像 —寒気に伴う特徴的な雲域—



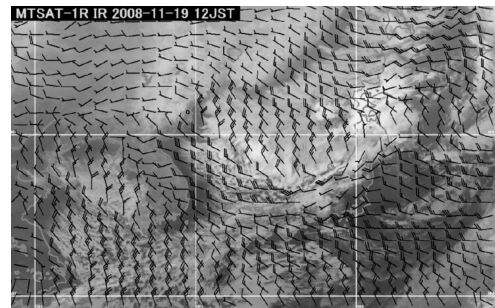
第1図 2008年11月19日12時（日本時間）可視画像。

11月になると北極からの寒気が日本付近まで南下し、日本周辺では寒気の流入に伴う特徴的な「冬の衛星画像」が多く見られるようになる。

2008年は11月18日～20日にかけて強い寒気が日本海だけでなく黄海付近まで南下し、筋状の対流雲域など特徴的な雲域が日本海から黄海で観測された。

第1図は19日12時（日本時間）の可視画像、第2図は同時刻の赤外画像に数値予報資料（GSM）の地上風向風速を重ね合わせたものである。日本海の大陸側及び黄海の沿岸からは「寒気に伴う筋状の対流雲域」が発生しており、そのうち日本海中部の「A」付近には寒気の風向と直交する（第2図 GSM 風向参照）、筋状の対流雲が発生している。この寒気の風向と直交する筋状雲を特に「T（トランスバース）モード」と呼び、大雪に警戒が必要な雲域である。

また日本海中部の「B」～「C」には折れ曲がった雲バンドが発生しており、バンドの東側は隙間のない厚い雲域となっていて、その一部は積乱雲にまで発達している（第2図参照）。この雲バンドは、沿海州か



第2図 同時刻の赤外画像と地上風向風速（GSM）。

らの北寄りの風と朝鮮半島からの西寄りの風が合流して発生する雲バンドで、これを帯状対流雲域と呼び、「JPCZ（Japan-sea Polar-airmass Convergence Zone：日本海寒帯気団収束帯）」に対応している。

この強い寒気の流入に伴い、北海道～九州の21官署で初雪が観測されると共に、帯状対流雲域がかかった石川県と新潟県では数多くの海上竜巻が観測された。

（気象庁予報部予報課 西村修司）